

# 文化 なかの

中野市公民館報

2008

No.35  
(通巻 No.567)

# 2

発行  
中野市中央公民館

編集  
文化なかの編集委員会

〒383-0025  
中野市三好町一丁目4番27号  
TEL 0269-22-2691  
FAX 0269-26-2342

## 季節のコラム

### 子供らの やしよまひき 春近し

お釈迦様の命日は2月15日ですが、この命日に「やしよま」を米の粉で作り、お仏壇へお供えます。

長野県の北部で作られる「やしよま」は、丸長のおおきな団子のような食べ物で、うすく切って食べます。

切ると金太郎飴のように、様々な色で工夫して組み合わせで作られます。

地域によっては、一月遅れの3月15日にやしよまの行事を行う所もあります。

子供の頃は、よくやしよまひきをするため隣近所を回り、色とりどりの模様の違ったやしよまを食べるのが楽しみだった。

そして、賑やかに外で大勢の子供たちと共に、色々な形や模様を見せ合って楽しく食べながら遊んだ記憶が懐かしく思い出される。

最近はその影響なのか、大勢の子供たちが外で遊ぶ姿が少なくなってきた。

今月号の  
特集

パネルディスカッション

## 『地域で子育てを 進めるために』

## あおぞら

立春を過ぎたとはいえ、相変わらず寒い日が続いています。「早く春が来ないかなあ」と願うのは私だけではないと思います。寒さの厳しいこの時期は運動不足に加え、食べ過ぎ飲み過ぎで、ふと体重計に乗った時に青ざめた方も多いのではないかと…。

「何とかしなくては！」と思いついたのが『キノコ』でした。キノコは低カロリーで食物繊維も豊富、便秘解消・コレステロール値の低下やガン予防にも効果ありと言われる万能食品です。

そして何よりここ中野市は様々なキノコの栽培が盛んで、新鮮で栄養豊富なキノコが手軽に手に入り、料理のレパートリーも多いので鍋や五目ご飯、炒め物や煮物など、カロリーを気にせずたくさん食べることが出来ます。しかしながら、減らしたカロリーは熱燗でも思うのは厳禁ですよ(笑)

キノコ工場から立ち上る白い煙をみたら、今晚のおかずはキノコ料理を一品加えてみてはいかがでしょう？

(K・S)



豊田公民館講座「信濃から夢に向かって」  
講座後の信濃グランセローズ選手サイン会の様子

# なかの21市民講座 パネルディスカッション

助言者 宮崎 稔さん(学校と地域の融合教育研究会会長 講演会講師)  
 パネラー 小島佐和子さん(社会教育委員・子どもの本読み聞かせボランティア)  
 小林日出夫さん(青少年育成事業『ふるさと冒険クラブ』の指導者)  
 丸山 浩さん(中野立志館高校評議員・中野西高校PTA役員)  
 宮下 宏さん(平岡小学校教諭・冊子『まなざし』の作成委員)  
 司会 柴垣 顕郎(なかの21市民講座運営委員)



## 「地域で子育てを進めるために」

■講演で印象に残ったことや、さらに聞きたいことを交え自己紹介してください。

■社会教育委員と図書館で子どもの本の読み聞かせ、各小学校の読書指導員もしています。お話を伺い、これからは地域の力を出す大切さを考える時期が来たと思います。

■ふるさと冒険クラブは、10年程になりますが、アウトドア系のわんぱく広場と、地域の伝統文化系が柱です。以前はきのこ狩、地蜂取り、蕎麦の栽培、今はキャンプ・雪上運動会や、ふるさとの昔遊びの事業をしています。

■学校が地域の拠点になり、地域の活性化がされるのと同時に感銘を受けました。ただ子どもも先生も少ない地域では難しいのではと思いますので、どう実現するのかをお聞きしたい。

■立志館高校の評議員と中野西校のPTA副会長をしています。子どもに携わることになり、PTAも子どもの教育にとって大事な位置づけだと思いました。「お父さんの読み聞かせ」で絵本を子どもに読んでいます。それと延徳小学校の「ポップ教室」「放課後教室」で活動をしております。

■栄村の秋山小学校で全校27名地域がなければ成り立たない学校を振り出しに、日本人学校では、日本とは違う教育事情の中

で地域がどう学校を支えているかに触れました。また大学での研究で、高校・大学生とも議論を交え現代のありようを議論しました。

小学校3年生の教諭ですが、「まなざし」という冊子作成に取り組ませていただき、「いろんな場所で子どもの姿が見られなくなつた」とのデータから、子どもたちはどう変わってきたのか、子どもが求めているもの、私たちが成せるものは何かと、議論をしてきました。子どもたちが求めているものを、論し導いていくことが、教師の務めだろうと思います。

「地域との融合」に疑問でしたが、教育批判から理解者になる地域の方、わが子だけでなくどの子ども同様に育てていこうとする取り組みに、感銘しました。

■校長を退職し四月から地域の親父になり、子ども教室で子どもたちと遊んでいます。子どもは校長先生と思わないで、本音を出してくれれます。ボランティアのお母さんたちの「学校は敷居高くて」ということを聞き、メッセージジャーとして学校側に伝えていきます。

今の時代、分かるふりをするのでなく、学校もここは苦手だと出してもいいと考えます。秋津小でも、学校の批判をしてきた地域の人が「そういう教育が大事だ、分かりました」と大

人らしく対応できるようになるプロセスがありました。私自身、人前で喋れない子で、学校はつまらないところでした。教員になったときに、僕のような子を一人でも作りたくない、学校が癒しの場・楽しい場になりたいという気持ちが強くありました。

今、子どもが放課後に学校で遊べないような状況にしています。授業が終ると、学校内で事故が起きないように早く家へ帰します。家に着くと、ゲームをやる子のほか、危ない公園、狭い空き地で遊ぶ子もいます。大久保東小のとき、「学校が一番安全だから、家庭を貸してくれ、町内会が順番で見守るから」と地域から要請があり、学校を開放しました。地域で保険などに入ることに、学校で遊べるようにしました。放課後だけでなく、土日となり、土日にグラウンドゴルフを、夏は夏祭りへと広がった事例があります。

■過疎化して人が少ないと、賛同者も少ない。一人に負担がかかる図式で、やめる方向へとなる。参加者が多いほど活性化すると思いますが、やろうとする気持ちや伝わらない歯がゆさがあります。

■参加者確保の話が出ました。退職している方に「こういう事業で、カメラ撮影してください」と写真班を頼みました。ま

たお年寄りへ「餅つきのこね手を教えに来てください」と言うのと、出ていただけました。何か役割がないと出てもらえないので、「このために」という誘い方をしています。

■秋津で、学校と町内会の人たちとの接点で、どうできたのか。お願いします。

■千葉県から「生涯学習フェスタを開催するので、学校と地域が一緒のものを発表してくれ」との要請があり、オペレッタを行うことにしました。学校と地域は大別別に練習し、一緒に練習するにも日程調整などトラブルがありましたが、とりあえずいいオペレッタの発表ができました。

■それで終了と考えていたが、「合唱団などを解散するのはもったいない」「学校で土曜日曜日に練習したい」との申し入れがあり、敵に回すとうるさい地域ですから、練習活動をするときは、教頭の私が鍵を開けに来ました。私には土・日曜日は全くありませんでした。

その時期に「あれでは教頭かわいそう」と言ってもらい、親しくなりました。そこで通信簿の評価に関わらない読み聞かせや、クラブ活動などに来てもらうようになり、接点ができました。

■どうしたら、学校と関われるのかを、地域も学校も考えなけ



ればと思います。  
 ■これは学校側からと思います。地域からでは、学校が警戒し一歩引くと思います。学校が「こういうことで来て頂きたい」と発信したことに、地域は答えやすいのです。学校が先と思いません。

■おっしゃるとおりだと思います。学校は敷居が高く行きにくいと思われがちですから、学校から発信し地域で受け止める方が、学校に足が向き、学校の様子、生徒の姿が見えてくると思っています。

■PTAの役員でなければ学校に行けない雰囲気があります。「開かれた学校」が、現実にあることに驚いています。子どもには、先生や親とは違う第三者地域のおじさん等ボランティア的なところが必要だと思います。

■「教育は学校でするもの」「地域の役割と学校の役割は元々違うもの」という意見がありますが、「地域で教える」と「学校での教育」の意義は、何でしょうか。

■義務教育は9年間ですが、その先生の数が100万人以下です。人口の1%以下の人が9年間を受け持つシステムです。その間に、いい先生ではないと言われる人もいます。

■教員養成の講師もしてありますが、今の学生たちを先生として欲しいと思わない。お礼口過ぎて、偏差値が高いが、体験もしたことない。分からないさびしい子どもの気持を理解できないだろう。

■団塊の世代が辞め、体験不足の先生が現場に来ると思っています。教育は学校がするという固定観念だけでいいのかわ、考えていただきたい。

■ただ地域の人は先生以上のことをしてはいけない、逆に先生が地域に丸投げしてもいけない。役割分担はきちんとすべきです。「通信簿にあんまり関係ない」技術面では地域の人に出てきていただき、コーディネートは教員がする。

■学校は地域に開きたいですが、地域の人が来ると煩わしいというのが本音ではないですか。  
 ■本音で言うと、子どもを指導している場面は見せたくないと思う先生方も多いと思います。でも授業参観の週を設けて、子どもと教師が生でぶつかり合う場面や、教師自身の胸を開き裸になって「学校はこの様にやっています」の方が、地域の方の共感に結びつくと思います。

■その通りだと思います。学校を開くことには、先生に警戒感がありますので、保護者や地域の人がどれだけ大人なれるのかにかかると思っています。先生の味方であることを見せることが大事です。

■学級懇談会などで「先生の書いた字が間違っています」「大きな声で怒鳴ると子どもが萎縮してしまう」と担任に言う大人になりきれない保護者もいましたので、「開く」ことに先生方は反対でした。そこで、「先生のま

ずいことでも直接先生には言わないこと、直させることは管理職に、私たちが指導するから」とPTAなどにお願ひしました。地域の人からの指摘でも自分が見聞したことになると、先生は傷つきません。親が先生の味方で大人らしくなることで、その先にはいい教育があります。

■PTA作業の学校の草刈は、以前は子どもと一緒にしましたから、「子どもと一緒に」と提案したが、先生方は受け入れませんでした。一緒にすることがいいと思いますが、いかがですか。

■建前では「一緒にやり、大人の後姿を子どもに感じてもらう」、地域の方に感謝しましょう」ですが、学校は嫌がると思います。子どもと一緒にでなく、時間のあ

いという程度のことです。「何月何日、授業はカットして一緒にやります」と行事に組むと重くなると思います。

■「一緒に」との思いは、よく分かります。行事の場合には、賛否もあり、どうお願いしているのか頭の痛いところです。ある意味で押し付けているのが現状です。子どもと教師と親でPTA活動をしていますが、それ以外の人・地域の人も大切です。

■その方をどう学校に取り込むか、どんな役割で学校に来ていただくことができるか、学校・教師から発信したいと思えます。

■中野高校へ食生活改善推進員の方が、おやき作りを教えに行き、卒業生が東京でおやきを作り、友達にふるまったそうです。その話を聞いて、教えた方は大変喜ばれたとのこと。以前

より学校と市民との交流があると思います。

■なぜ、地域の人は通信簿と関係のない部分なのか。子どもが傷つけられるのは、通信簿に関係したところだと思います。地域は通信簿と関係のない分野で、学校は子どもを評価する通信簿の分野という二分法を越えられないものですか。

■誤解を受けました。最初に学校に入るときのことです。環境だとか、時間割を変更しないで済むものの方が、最初は地域の人が入り易く、学校も排除する理由がありません。つながりを作りながら、本丸の大事なところに入る必要があると思いませんか。つながりもありません。

■算数の授業を先生と一緒に見る。「落ちこぼれを作らないため協力する」では、抵抗が出ると思います。

■信頼関係が出てくると、通信簿の分野もできます。今、秋津小では、放課後算数教室を地域のお母さんがしています。中学生の数学教室もですが、先生はまだ嬉しい顔をしていないみたいです。

■これからは大人が、本当に大人になることを求められています。教職員は違いに耐える勇氣をと申しましたが、教職員に限らず大人はみんな違っていて、自分の意志でやること、横並びでなくてよいと考えます。順番でやるのが、平等であるようにみえるが、できる人ができることをやればよいです。自立すること、自分の主体的な一歩で

動くことが、求められている気がします。

■かつて小・中学校は文化の拠点だったと思います。「俺たちの学校だ」と学校に求心力があり、そこに人が集まる。俺たちの学校だから良くしようと、人のつながりができていた気がします。

■ペルーの日本人学校では、お金の払えない親たちは、代わりに机を直すなど学校の環境整備で貢献し、教員も教科書が無い子どもたちに印刷して渡すという「教育愛」がありました。親の信頼を得て子どもたちが遅く成長するよう進めたい、今回の融合について実践を目指していきたいと思えます。

■市民のためにプロとして、子どもへの責任を取ることでできる教師であるために、もっともつとやっておくべきであったと思っています。

■地域の関係で胸を痛めた先生たちに寄り添うこと、地域の人に人材登録していただいたが、1年間お呼びしない場合には、お手紙を出すべきだと思います。

■今年はこの様な事情でお声をかけませんでした。来年も是非お願いしますと寄り添い、心通わせることが、大事だと考えます。

■今回は、通常の公民館の講演会とは違い、市民を交え協議し準備したものです。この議論をただ話だけに終らせずに、地域の役割や可能性は何か、学校とは何かを、考えるきっかけになれば、と思います。今日はありがとうございました。

# こんにちは 分館

東吉田区は七百世帯二千人が暮らし、中野市では西条区に次ぎ二番目の大きな区となりました。昔ながらの区ではないので、神社など集う場所がありません。その為、分館事業には区執行部並びに関係諸団体の協力を頂きながら精力的に行っています。春のソフトボール大会から秋の文化祭まで八つの事業を行い、参加人数は延べ千二百人に上っています。中でも区民ソフトボ

## 東吉田分館

ール大会と盆踊り大会にはそれぞれ四百人前後の参加者があります。殺伐として将来に希望が持てない社会の中で、区民にとつては微力の光ですが分館として注ぐ事ができたと思います。そして今年、分館報以外の情報伝達ツールとして、ホームページを立上げました。素人集団ですのでもまだ未熟な内容の物です。ただ、遠くで暮らす区出身者が故郷を想う時、ページを覗いてくれたらいいなと思います。ヤフー・グーグル



『盆踊り大会』賑わう  
手作り屋台の様子

分館長 徳竹 博幸

で『東吉田分館』検索で見ることが出来ます。これからも誇れる故郷の分館であってほしいと望んでいます。

## ふるさととの歴史

江戸時代には「吉田千石」といわれたほどに、大字吉田地籍は広く、東は松川駅の北東まで細長く入り込んでいます。昭和三十年ころまで、現在の東吉田地籍には、人家は端の方にわずかあっただけであった。

三十年過ぎに、その地区に工場と松川県営住宅ができること、急速に住宅地化がはじまった。吉田区の本ムラは遠く西のほうにあり、生活上なにかと不便なことが多かった。たとえば、市からの配り物の遅配、近くに中野小学校が見え

## 東吉田区の誕生

ていながら、三キロもある平野小学校への通学、保育園通園も同じこと。お祭りの職立て、春秋の道普請と堰あげは関係ない地点まで出なければならぬなどであった。

昭和三十七、八年ころ、新し

い区を作ろうという動きが住民のなかに起こり、三十九年二月、新区設立準備委員会を立ち上げて協議を重ね、吉田区長に相談。二月二十九日の吉田区民総会で、新区の範囲を限定して承認され

た。

三月二十八日、名称を「東吉田区」と決定、準備委員会を実行委員会に切り替え、住民の理解を得る努力をした。

松川区から区の範囲をめぐる抗議があり、松川県営住宅付近は住民の自由意志に任せることで決着をみ、また越石問題なども解決。昭和三十九年（一九六四）四月六日、中野市公民館（現松川区民会館）において、青木市長などを迎えて、設立総会を開き、東吉田区を四月一日にさかのぼって設立する決定をした。

阿部 敏明

## 編集委員 だより

今回の編集委員だよりは、去る一月十四日に行われた、間山地域の「どんど焼き」をご紹介します。

間山区では区内の地域ごとに七箇所「どんど焼き」が行われ、取材したある組では当日の朝、組立作業を行い、夜七時ごろ花火を合図に、老若男女が集まってきました。始めに行う、花火師の皆さんによる「打上げ、仕掛け花火」は、あたりの白銀の風景を照らし出し、とても幻想的でした。

来年は「七箇所昇火・花火・中野の夜景」を同時に一望できる「ぼんぼこの湯」で堪能したいと思えます。

その花火が終ると同時に次は「どんど」に着火し、炎が下火になったころ、祖父母と一緒に作ったと思われる色鮮やかな「もの・もち」を、子ども達が炎で炙ります。祖父母と一緒に炎の熱さを我慢して、炙っている姿はとても微笑ましく、まさに世代間交流の象徴でした。

大変珍しい区内七箇所での「どんど焼き」は、関係者にとっては多大な労力が必要だと思われませんが、この素晴らしい伝統行事を後世に伝えていってほしいと願っています。





## 今月の伝言板

### 中央公民館から

#### ■中野市統一成人式のお知らせ

平成20年から中野市成人式は中野地域・豊田地域を統一して開催します。開催日は5月4日(みどりの日)です。受付は午前9時30分、開式は午前10時です。会場は中野市市民会館です。

昭和62年4月2日～昭和63年4月1日生まれの方が対象となります。

なお、平成20年3月中に、中野市に住居登録している方を対象に案内状をお送りします。

現在、市外・県外にお住まいの方で中野市成人式の出席を希望される方は、事前に中野市中央公民館までご連絡ください。

#### 2月の展示コーナー

#### 書道如水会会員

#### 日展入選者作品展

場 所 中央公民館1階 展示コーナー

#### ■灯籠びなをみんなでつくって、 練り歩きたのしもう!!

みんなで灯籠びなをつかって、練り歩き楽しもう  
土人形の絵付け体験もあります

日 時 (予定)

3月1、8、22、29、31日  
全5回(午前9時～)

会 場 中央公民館

対 象 市内小学生 定 員 20名

申込み 2月25日(月)までに中央公民館へ

その他 参加料600円程度



お問合せ及び 中野市中央公民館  
申 込 み 先 ☎22-2691 (有)20691

### 西部公民館から

#### ■高齢者大学

教養や趣味の幅を広げるとともに、社会参加に向けての生きがいづくりにお役立て下さい。西部公民館は高齢者の皆さんを応援します!

すべて金曜日、時間は午後1時30分～3時まで。

受講料は無料で、どなたでも参加できます。

#### (予 定)

2月8日 「心と体の健康」

講師 元中野小学校校長・水墨画家 嘉生稀宗さん

2月15日 「手品をやってみませんか」

講師 長野市マジック愛好会副会長 安藤照治さん

2月22日 「救急救命講習会」

講師 中野消防署員

2月29日 「気功～誰にでも出来る身体の痛み予防～」

講師 スポーツ指導員 畔上百合子さん

3月7日 「ひな市と中野土人形」

講師 中野土人形研究家 小古井嘉幸さん

お問合せ及び 中野市西部公民館  
申 込 み 先 ☎23-1024 (有)26674

### 北部公民館から

#### ■映画上映会 音楽ドキュメンタリー映画 ♪ララ、歌は流れるー中山晋平物語ー

中野市出身の作曲家、中山晋平先生の生涯を追ったドキュメンタリー映画です。少年時代から晩年までを映像化し、中野市の住民や子ども達もエキストラ出演しています。

「カチューシャの唄」「シャボン玉」「雨降りお月」など大衆に愛された晋平先生の名曲が流れてきます。

この機会に、ぜひ、心温まる映画をご鑑賞ください。

日 時 2月12日(火)

午後1時～(上映時間90分)

会 場 北部公民館 2F 講堂

対 象 どなたでも

その他 申込み・入場料は不要です。

お気軽にお出かけください!!

お問合せ及び 中野市北部公民館  
申 込 み 先 ☎26-0677 (有)28878

## 今月の伝言板

### 豊田公民館から

#### ■子育て支援講座

##### 「親子のふれあい教室」

親子で歌やゲームをたのしみましょう。

日時 3月9日(日)

午後2時～3時30分

場所 豊田文化センター

講師 小学校教諭 田中裕美 先生

対象 未就学児～小学生と保護者

受講料 無料

申込み 豊田公民館へ



#### ■星の観望会「星空をみよう」

冬の澄んだ空気で一段ときれいに見える冬の星空を眺めてみよう。

日時 2月16日(土) 午後6時30分～9時まで

場所 北信濃ふるさとの森文化公園創造館

内容 プラネタリウム観覧、冬の星観望  
(悪天候時はプラネタリウムの観覧のみ)

講師 信州中野天文同好会の皆さん

対象 子どもから大人まで誰もが参加できます。

受講料 無料

定員 40名 申込み 豊田公民館へ

お問合せ及び 中野市豊田公民館  
申込み先 ☎38-2922

### 平成19年度 豊田公民館文化講演

# 芸能人の父、いかりや長介について

「男たるもの、かく生きるべし」  
父親として、一家の長として、  
また、一人の男として、  
いかりや長介氏が背中でお教え、  
語り続けてくれた  
多くの人生哲学。

講師 (株)ドリフターズ取締役社長  
**いかりや 浩一 氏**

日時 **2月24日(日)**  
午後1時30分開会

会場 **中野市豊田文化センター**

**入場無料**

※託児室を設けますので、  
ご利用を希望される方は、  
豊田公民館へお申込み下さい。



#### プロフィール

ドリフターズのリーダーとして活躍された故いかりや長介氏の長男。

1993年、明治大学経営学部卒業後、森永製菓(株)入社。  
2004年、(株)ドリフターズ事務所代表取締役を兼務就任し、現在に至る。

主催 **中野市豊田公民館** TEL **0269-38-2922**